

# 完全週休2日の取り組みについて

川村 達暉<sup>1</sup>・大西 孝幸<sup>2</sup>

<sup>1</sup>近畿地方整備局 福知山河川国道事務所 工務第二課 (〒620-0875 京都府福知山市字堀小字今岡 2459-14)

<sup>2</sup>近畿地方整備局 福知山河川国道事務所 綾部監督官詰所 (〒623-0031 京都府綾部市味方町中ノ坪 21-1)

近畿地方整備局福知山河川国道事務所では、担い手確保・育成のため、休日は家族と過ごし、余暇を楽しむことが出来るなど、ワークライフバランス「仕事と生活の調和」を図り、建設業界の労働環境改善を進めるため、土日は現場閉所を実施し、休日を確保する「土日完全休日化促進試行工事」を発注しました。

また、実施企業に対してフォローアップ調査を行い、土日完全休日化促進の課題抽出をはかることで今後に反映していき、建設業界の労働環境改善の一助になれば幸いです。

キーワード ワークライフバランス, 土日完全週休2日, 試行工事

## 1. はじめに

ワークライフバランスとは、誰もがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たす一方で、子育て・介護の時間や、家庭、地域、自己啓発等にかかる個人の時間を持てる健康で豊かな生活ができるよう、今こそ、社会全体で「仕事と生活の調和」の実現を希求していくことです。そのため、国土交通省としては、建設現場において男女ともに働きやすい環境とするため、次のような環境整備を進めています。

### ● 週休2日モデル工事の更なる拡大

国土交通省が2014年から取り組んでいる週休2日モデル工事について、2014年は6件、2015年は56件実施しました。2016年は近畿地方整備局の実績として、約25件数となっており、更なる拡大に取り組んでいます。(図-1)

週休2日モデル工事の更なる拡大		
概要		
■建設現場の就業環境改善の取り組みとして、毎週2日を休日とする「完全週休2日制工事」の試行を平成26年度より実施。		
試行実施内容	H26試行	H27試行
○受注者が完全週休2日を踏まえた工程を提出。 ○週休2日が確保出来るよう受発注者で工事工程の進捗調整。など	6工事	56工事

図-1 週休2日モデル工事について (全地整)  
(国土交通省のHPより)

### ● 長時間労働の課題

長時間労働の要因の一つとなっている発注者への提出

が必要な書類は、ICT土工の全面的な活用により作業手間の省略やさまざまな書類を大幅に削減します。

この取り組みの背景として1999年頃から建設投資額が減少し、それに伴い建設業者数、建設業就業者数の減少が挙げられています。(図-2)

建設業就業者数の減少は週6日勤務が一般的で、仕事はきついし、休日が少ないため若い世代(29歳以下)の就職率が他の業界に比べて低迷しているからです。

また、高齢化も進んでおり、55歳以上の人が建設業就業者の3割以上を占めているため10年後には引退することで就業者が減少し、担い手の確保が厳しい状況となっています。

ワークライフバランスとi-Constructionの導入により「給与、休暇、希望」の新3Kを目指すことで建設業界の労働環境改善を進めて、若い世代(29歳以下)の就職率向上に努めています。

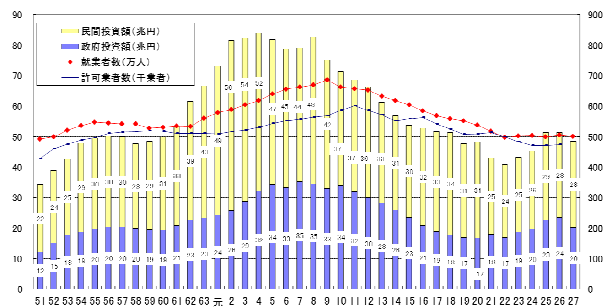


図-2 建設投資、許可業者数及び就業者数の推移  
(国土交通省「建設投資見通し」・「許可業者数調べ」、総務省「労働力調査」より)

## 2. 実施内容

### (1) 工事概要・内容

試行工事を実施する西舞鶴道路は、福井県敦賀市から京都府船井郡京丹波町に至る主要幹線道路であり、京都府北部地域、福井県嶺南地域の経済、産業、生活を支える道路である国道27号の舞鶴市西地域市街地の交通渋滞の緩和や京都舞鶴港と舞鶴若狭自動車とのアクセス改善を図ること等を目的としたバイパス道路です。(図-3)



図-3 西舞鶴道路の計画図

工事内容は、現場に入るための工事用道路を設置し、路体盛土を行う工事であり、発注時は盛土量として22,300m<sup>3</sup>、盛土材については約50km離れた場所からの運搬を行う工事です。(表-1)(図-4)(写真-1)

当初工期は2016年4月1日から2016年9月30日までであったが工事を進める中で、現場条件等の変更により盛土量35,000m<sup>3</sup>になり、併せて工期も2017年1月13日までに変更しました。

工事名	西舞鶴道路京田地区他改良工事	
工期	当初	2016.4.1～2016.9.30
		～2017.1.13
金額	当初	¥180,165,600
	第三回変更	¥276,501,600
主な工種	路体盛土工	
	法面整形工	
	仮設工	

表-1 工事概要



図-4 工事箇所について



写真-1 土日完全週休2日試行工事の工事状況

### (2) 土日完全週休2日工事について

近畿地方整備局として、土日完全週休2日工事は2015、2016 発注工事の中から各府県1～2 件程度を抽出し、発注者指定として発注段階から入札公告、入札説明書及び特記仕様書に土日完全週休2日工事であることを記載し発注しました。

工事成績評価についても他地整では工程管理に関する項目を評価し、最大3点の加点するところ近畿地方整備局は、土日完全週休2日を完全実施した場合最大5点の加点とし、取得状況に応じて加点します。(表-2)

休日取得率	加点
全土日実施	5点
土日休日取得率 88%以上 全土日実施未済	4点
75%以上 88%未済	3点
63%以上 75%未済	2点
50%を超えて 63%未済	1点

表-2 取得状況に応じた配点

また、フォローアップ調査として受注者、協力会社に対して、アンケート調査などを行うことで効果及び現状の課題や問題点を把握し、今後の労働環境改善に向けて、具体的方策等を検討する際の基礎資料になると考えています。(表-3)

Q1	土日完全休日化促進試行工事に伴い日給労働者の給与を増額したか(または下請けに増額して支払ったか)
Q2	1)増額した場合・・・どの程度増額したのか 2)増額していない場合・・・その理由は
Q3	増額した場合・・・その原資はどのように確保したか (元請からの契約額があがったのか、自社でやりくりしたのか)
Q4	今後、土日完全休日化促進試行工事件数が増加した場合、同様に給与の増額を実施する予定はあるか
Q5	技能労働者への支払いは設計労務単価に基づくものか、自社基準に基づくものか(設計労務単価をどのように会社内で位置づけているか)
Q6	実際に週休二日を経験してみて、どのように休日を取得するのが好ましいと考えるか (土日休み、4週8休(雨休有りの場合は土曜は働く等)、工期内で4週8休相当の休日確保 など)
Q7	技能労働者の雇用形態(正規社員、パート、アルバイト、派遣、契約社員、嘱託、日雇い 等)
Q8	技能労働者が土曜日等に他現場に行く場合はどのように、他現場を探しているのか (企業の斡旋、技能労働者が自ら探す(その場合雇用形態は正規社員ではないということにより))
Q9	雨等で仕事が無いときにどのような作業をしてもらっているか。何もさせていないか。 (技術者、技能労働者別)
Q10	雨で現場作業ができないときや仕事が無いときに費用は払っているのか(つなぎとめるための費用は払っているのか)
Q11	Q10で費用を払っている場合・・・どの程度の金額を支払っているのか。
Q12	日給と月給は作業員が自ら選べるのか
Q13	日給と月給で給料(日当、年取)は違うのか
Q14	日給、月給の選択理由(どういうひとが日給を選択し、どういふ人が月給を選択するのか)

表-3 アンケート調査の内容

(3) 土日完全週休2日工事の候補とした理由

構造物築造の工事では、作業工程が多くなり各段階の調整等が必要となることから、工程管理が細かくなり施工業者の負担が多くなると思いました。

また、構造物築造の場合、一連での作業が必要となる場合があり土日完全週休2日が可能か分かりませんでした。(図-5)

本工事は盛土材を運搬し、現場にて盛土をする土工が主たる工種であったため、構造物築造の工事に比べて作業工程が複雑でなく、調整事項についても、ダンプ台数を何台で運搬するかにより一日に施工する量が決まるため、調整事項が少ないので、工程管理をする上でダンプ台数により簡易に管理できると思い選定しました。(図-6)

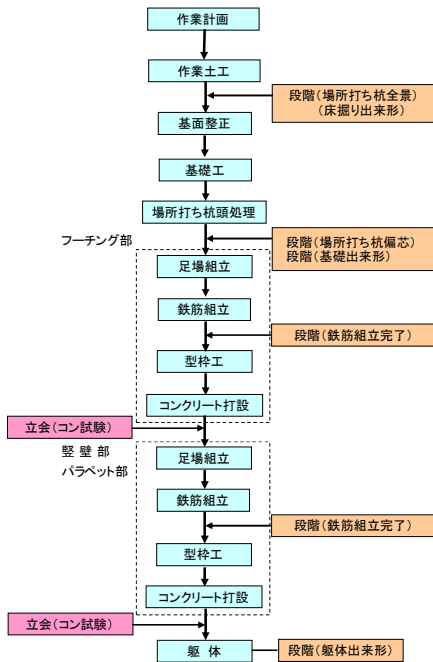


図-5 一般的な構造物工事の施工フロー (例)

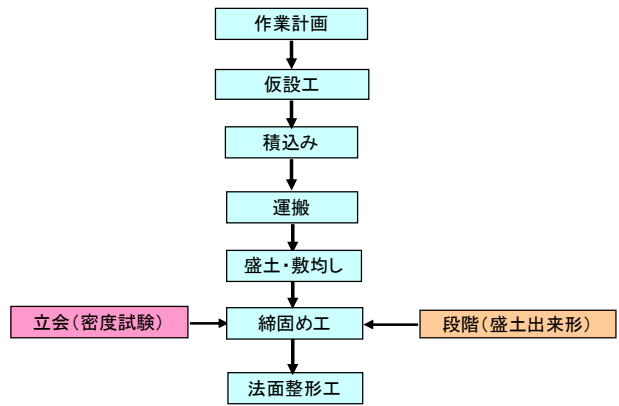


図-6 今回工事の盛土施工フロー (例)

(4) 完全週休2日を実行するためにやったこと

a) 発注者が実行するためにやったこと

工事着手後に、受注者との工程等調整にあたり受注者に対して、毎週履行状況の確認を行ない土日完全週休2日を実施できるかを確認するなど、受注者との連携を密に図りました。

施工がスムーズに進むように、ワンデーレスポンスに努めました。

b) 受注者が実行するためにやったこと

受注者としては、完全週休2日にするにはダンプ台数の確保が重要であったため、台数確保に力を入れました。

また、協力会社と密にコミュニケーションを図る取り組みを行いました。

工程管理をする上で、天候を気にしながら作業に当たり天候が良い日には、ダンプ台数を多くして天候が悪くて作業がうまく進まなかったものを少しでも回復するように工程のフォローアップを行いました。

3. 達成状況

当初発注時に行った工程計画のとおりであれば土日完全週休2日の履行は達成できたと思われます。現場条件の変更等により盛土量が増加したため、現場の施工は土日完全週休2日にできたものの書類整理で土曜日勤務になったこともあるという結果になりました。

なぜ、資料作成が土曜日勤務になってしまったかというと、数量増により工期が1月中旬までになったことで、12月から1月は積雪がある地域であり、例年に無いような積雪があったことから、施工が工期末間際になってしまい、検査等の資料作成が時間外勤務をしても間に合わなかったことから土曜日勤務を行ってしまいました。

(写真-2)



写真-2 工事完成間際の積雪状況

#### 4. 実施して良かったこと

##### ● 現場の意見

休日作業をなくしたため、現場作業員がメリハリをつけて現場に当たれたので事故等がないように安全に作業が進みました。他の工事では工期末が忙しくなり、現場作業員等に疲れが見られたが、本工事では見られませんでした。

##### ● 発注者の意見

工事現場の周辺地元住民に対して、土日は作業を行わないと説明できるので、工事への理解が得られやすくなり、地元住民と良好な関係になれました。

また、土日は周辺道路の交通量が多くなるため、土日に工事をしないことで、一般交通に影響を与えなくなり苦情等がありませんでした。

#### 5. 今後の課題等

##### ● 発注者としての課題

今回、達成できなかった原因としては工期の設定に施工の工程だけでなく、発注者にはあまり見えない地元調整や資料作成をもっと考慮して工期を設定していくべきでした。

また、受注者ともっとコミュニケーションを取り、現状把握や課題等を共有していくべきでした。

##### ● 受注者の意見

今回、舞鶴市周辺での土日完全週休2日の試行工事が本工事だけであったこともあり、周囲の現場は土曜も作業しているために、協力会社の作業員（特に日給の人）は週休2日にすると普段週6日で仕事をしているため、1日分稼ぎが減り、1日でも収入を得るために他現場に行ってしまう傾向があり、作業員の確保が困難でした。

一部では日給の単価を上げたところもある。また、雨天等の中止の際に作業を土・日曜日に振り替えるのが不可能なために天候が良い時の一日の作業内容が多くなっ

てしまい、余裕を持って作業に当たれませんでした。

普段週休6日で仕事をしていて、1日減るので普段より書類作成等での残業が1日平均2時間程度増えた。週休2日にしたことはいいが、残業が増えたらきつい仕事のイメージは改善できないと思いました。

#### 6.改善できたら良い点

##### ● 受注者の意見

週休1日に比べて1日分稼ぎが減るため収入が減る人がいるので、作業員の生活の為に労働単価、経費の見直しが必要です。また、若い世代（29歳以下）の人も休暇だけでなく収入の低さも問題になっていると思われるので、建設業全体で労働単価、経費の見直しが必要になってくると思います。

また、本工事は試行工事であったことから、作業員（特に日給の人）は一日でも収入を得るために他現場に行ってしまうことについて、将来すべての現場を週休2日にする事ができれば他現場への流出を防げると思いました。

工期末に荒天が続いたら工期を守れなくなる可能性があるため、荒天日は土・日曜日に振り替えられる等の処置ができれば工期末にもっと余裕ができたと思います。

残業が1日平均2時間程度増えたことについて、無くなるのが一番であるが将来すべての現場を週休2日なれば残業が増えたとしてもいいと言う意見もありました。

また、現場を週休2日にすることで担い手確保にもつながると思いました。

##### ● 発注者としての意見

週休2日の工事に対応した工期の設定方法（不稼働係数や日当り施工量の見直し等）の確立や労働単価、経費の補正等を行うことで、試行から本格的な導入ができると思いました。

また、「給与、休暇、希望」の新3Kに変えるためにもっと週休2日の工事を行ない世間に対して、いいイメージを持ってもらえるように、広報活動を行う事が大切だと感じました。

#### 7.まとめ

今回、土日完全週休2日の試行工事を行って、当該工事ではあまり若い世代（29歳以下）の参加人数が増えたわけではないが、将来すべての現場を週休2日にする事ができれば若い世代の人の就職率が上がると思えた。

若い世代の人が「きつい、危険、きたない」の3Kから「給与、休暇、希望」の新3Kに改善出来ると思ってもらえるように、課題と改善を繰り返しながら進めていく事が大切だと思いました。

また、今回の試行工事後に工期が通常よりも長くなることから、間接工事費に補正を掛けるように2017年

3月28日付けで大臣官房技術調査課長より事務連絡が出ているため、今後土曜日の作業が無くなったことでの減収についても解消できたらいいなと思っています。

今回の試行工事については、多くの課題がありました。が試行であるため今後この課題を解消していき、将来すべての現場を週休2日にできれば建設業も変わっていくのではないかと思います。

また、これらの取り組みを積極的に発信していき、理解が得られることになり若手の就職率向上となって、建設業のさらなる発展で将来につながっていくと思っています。

**謝辞：**本論文の執筆に当たって、関係する皆様方に多大なご協力をいただきありがとうございました。  
また、多忙のところ資料提供いただいた（株）第一土木様にも謝意を表します。

#### 参考文献

- 1) 建設現場におけるワーク・ライフ・バランスの推進  
平成28年5月19日
- 2) 国土交通省「建設投資見通し」・「許可業者数調べ」
- 3) 総務省「労働力調査」
- 4) 西舞鶴道路京田地区他改良工事 工事資料